

株式会社テイツー第 36 期定時株主総会質疑応答（要旨）

株主総会当日の質疑応答の要旨は以下のとおりです。

Q1. 業績が堅調に推移している一方で、株価が軟調に推移していることについて、会社としてどのように考えているか。

回答者 代表取締役社長 藤原 克治

回答 株価の状況については、経営として真摯に受け止めております。株主の皆様からは、これまでも企業価値向上や株価対策に関するご意見をいただいております。当社としても事業成長に向けた各種施策に取り組んでまいりました。現在の業績は、これまで進めてきた取扱商材の拡大や事業基盤強化の取り組みが、一定程度成果として表れてきたものと考えております。一方で、当社の成長性や取り組みを株主・投資家の皆様十分に伝えるできていない面もあると認識しております。今後も、事業の成長と収益力の向上に努めるとともに、IR 活動や情報発信の改善を通じて、企業価値の向上に取り組んでまいります。

Q2. 5 年先、10 年先を見据えた成長の方向性や、現在の成長戦略の先にある事業展開について、どのように考えているか。

回答者 代表取締役社長 藤原 克治

回答 当社は、創業以来、中古流通市場におけるエンターテインメント商材を中心に事業を展開してまいりました。古本・コミック、ゲーム、トレーディングカードなど、時代の変化に合わせて取扱商材や事業領域を広げてきた経緯があります。一方で、デジタル化の進展や市場環境の変化もあり、長期的な成長の方向性を、具体的な数値や分野別の内訳として十分にお示しできていない面があると認識しております。足元では、これまで積み上げてきた取り組みが少しずつ成果として表れてきており、その中には将来に向けた成長の芽も含まれていると考えております。今後は、各事業領域における取り組みや進捗について、可能な範囲でより分かりやすくお伝えできるよう、開示資料や IR 活動の改善に努めてまいります。

Q3. 台湾での店舗展開について、現地での反応や収益性、今後の海外展開の可能性をどのように見ているか。

回答者 代表取締役社長 藤原 克治

回答 海外展開は、当社の成長戦略における重要なテーマの一つと位置付けておりま

す。当社が取り扱う漫画・アニメ・ゲーム等のエンターテインメント商材は、国内においても引き続き成長余地がある一方、海外においても一定の需要があると認識しております。台湾での取り組みにおいても、現地のお客様からの反応などを通じて、一定の手応えを得ております。今後の海外展開においては、商品の供給体制、物流コスト、現地での運営体制、人材育成などを総合的に勘案しながら、収益性を高める仕組みづくりが重要であると考えております。また、現地での商品調達や店舗運営体制の整備についても、今後の課題として取り組んでまいります。台湾での取り組みを進めながら、他地域への展開可能性も視野に入れ、引き続き慎重かつ前向きに検討を進めてまいります。

Q4. 個人投資家に対して、決算説明会や IR 資料などを通じた情報発信をさらに強化する考えはあるか。

回答者 代表取締役社長 藤原 克治

回答 当社としては、より多くの株主・投資家の皆様に当社の事業内容や成長可能性をご理解いただくことが重要であると認識しております。これまでも情報発信の強化に向けた取り組みを進めてまいりましたが、個人投資家の皆様にに向けた情報提供については、まだ改善の余地があると考えております。今後は、決算説明資料や各種 IR コンテンツの充実などを通じて、当社の取り組みや成長戦略をより分かりやすくお伝えできるよう努めてまいります。

Q5. 店舗網や取扱商材が拡大する中で、リユース事業における不正防止やコンプライアンス体制をどのように整備しているか。

回答者 代表取締役社長 藤原 克治

回答 リユース事業や古物商事業においては、店頭での買取や中古品の商品化など、事業特性に応じた管理体制の整備が重要であると認識しております。当社では、組織的なチェック体制を整備するとともに、内部監査部門による確認を行い、不正リスクの未然防止および早期発見に努めております。また、現場での管理体制に加え、業務のシステム化やオペレーションの標準化を進めることで、属人的な判断に過度に依存しない仕組みづくりにも取り組んでおります。今後、取扱商材や事業領域が拡大していく中でも、コンプライアンスを重視し、内部管理体制の強化と適切な運用に継続して取り組んでまいります。